

今日はケニア「ジャムフリ・デイ」をご紹介します。

「ジャムフリ・デイ」は、1963年12月12日、ケニアがイギリスの植民地から独立した日をお祝いする日です。今年で44歳、まだまだ若い国といえるのではないのでしょうか？私がケニアにいた4年前、ナイロビのニャヨスタジアム(国立陸上競技場)で行われた式典を見に行きました。

軍隊を持つケニアの、この国家的な式典は、年に一度のお祭りをするような騒ぎです。早く起きて競技場へと急ぎ、なんとか席を確保しましたが、あまりの人の多さに(当たり前ですがほとんどアフリカ人)自分だけが日本人で目立っているような気がしました。空軍による航空ショーで幕をあげ、中国の雑技団のショーが続き、観客の興奮はどんどん高まります。そして軍隊のパレード。制服といい、音楽といいまさにイギリスのパレードと同じです。それもそのはず、彼らはイギリスへこのパレードの練習をしに行っているとか。

そして各国大使館の紹介のあと、最も盛り上がる大統領の入場とスピーチ。なんと大統領は、小型の飛行機で競技場の真ん中に着陸するのです。常日頃、大統領の「政策のここが悪い」「全く国民のことを理解しない」「政権交代だ！」と言っているケニア人なのに、やはりこういう日になると「大統領万歳！」「永遠に！」などと賞賛の嵐。なにかと問題の多いアフリカの国家ではあるけれど彼らの「愛国心」を見せ付けられた一日でした。

日本でも12月12日、ケニア大使館の主催で「日本にいるケニア人のための」独立記念日のパーティーが行われます。ケニア人の友人から招待状を受け取ることで日本人も参加できます。